

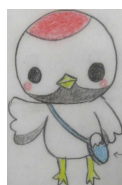
都留第二中学校だより

日新

校訓 日新
学校教育目標
・美しい心
・輝く知性
・たくましい体

都留第二中学校学校だより
NO20

平成30年3月5日(月)
文責 小俣一夫



輝ける人に憧れて あなたも輝ける人になろう！

ある講演会で、「人を動かすのは『あこがれ』である。」という話を聞きました。確かに私自身を振り返ってみても、「あんな人になりたい。」「あんな先生になりたい。」「あんな人のような生き方してみたい。」というようなモデルがいて、目標があったような気がします。また、反面教師というのでしょうか、「あんな大人にはなりたくない。」「あんな考え方はしたくない。」と思った場面も多くあったように思います。考えようによっては、その人と逆のことをすればいいのですから、それなりに具体的な目標を持つことができるのかもしれない。



いずれにしても、人はそれまでに接してきた人の中から、自分の生き方の目標を作り出しているのです。身近な人からの影響を受けて変わったという人は多いのではないのでしょうか。

では、中学生は誰を見てモデル（目標）に設定するのでしょうか。身近な人と言えば「先輩です。」あこがれの先輩です。私自身もこれまで「モデル（目標）」になる先輩がいました。その先輩のようにになりたいという思いもあって、たくさんの取り組みや活動に頑張ってきた部分もあったのだと思います。

そこで、生徒の皆さんに提案です。皆さんは、「あこがれる先輩を目標に頑張らしましょう！」ということです。特に3年生は後輩の手本や目標、あこがれの対象にならなくてはならないのです。部活動、生徒会活動、委員会活動、日常の発言や行動・・・等々、これらの生活の中で、後輩は君たち先輩の言動をよ〜く見ていたのです。そして、これからは、君たち3年生が、自信を持って頑張る限り、目標として追い続けるのではないのでしょうか。決して、スター選手（目立つ人）だけがあこがれの対象となるわけではありません。ベンチスタートであっても自分の役割をきちんとこなしている人、見えないところでみんなのために働いている人、そんな人にあこがれを持ち、目標にするのだと思います。1・2年生の後輩は、自分の目標とする先輩に追いつけるよう、日々の積み重ねを大切に中学校生活を送ってほしいと思います。

憧れこそ自分を変え、成功に導き、夢を引き寄せることができるものなのだと思います！ぜひ生徒の皆さん、今の憧れを自分の力に変えて人生を創り出して、あなたの夢や目標を叶えてください！輝ける人に憧れて、あなたもぜひ輝ける存在になってほしいと思います。

『続くと本物になる。本物は続く。』



H30年度生徒会執行部が動き出しました！



応援団も気合い入れてスタートです！

3送会「巣立つ3年生への感謝を込めて！」

3月2日(金) 5・6校時に「3年生を送る会」を行いました。1・2年生が都留二中をこれまで支え、引っ張ってきてくれた3年生への感謝の気持ちを込めて、12月から計画と準備に取りかかり、練習を重ね当日を迎えました。1・2年生の「3年生を送る会実行委員会」が、この会の中心となって進めてくれました。大変ご苦労様でした。

実行委員会名	実行委員長名	副実行委員長名
合唱実行委員会	山本 廉	志村 仁寛
装飾実行委員会	小倉 里桜	
記念品実行委員会	杉本 望美	持田 星夏
ｽﾌﾟｰﾋﾞﾃﾞｵ実行委員会	赤澤 駿	瀧口 天斗
吹奏楽実行委員会	竹之内 愛望	清水 惟加
応援実行委員会	上原 力樹	滝澤 佑一朗
1年発表実行委員会	菊地 佑梨	落合桜介 外川 麟
2年発表実行委員会	鈴木 皓士	長田 光平
協力員実行委員会	藤城 隼也	近藤 まほろ



頼むぞ 清水会長！
都留二中の伝統を！

卒業していく3年生128名ですが、この1年間は、学校生活の様々な場面で、都留二中の先頭に立ち、手を抜かず、堅実で、時にはユーモアも交えた笑いの中で、常に全力投球で頑張ってきてくれました。そして、そんな3年生であったからこそ、在校生がこんなにも一生懸命に準備をして、この会を開催してくれたのではないのでしょうか？

また、3年生も受験勉強の合間を縫っての準備と練習でしたが、学年のまとまりを感じさせてくれる合唱でした。君たち3年生のこれまでの頑張りが後輩を動かしたことは間違いありません。ここまでの頑張りに自信と誇りを持って下さい。つまり、3年生はこの「3送会」に値する行いをしてくれました。

話は変わりますが、先日、平昌で行われたオリンピックを皆さんもテレビで見たとと思います。スケートの羽生結弦選手や宇野昌磨選手・小平奈緒選手 スノーボードの平野歩夢選手・ジャンプの高梨沙羅選手・「そだねー」のカーリングL S北見の本橋麻里選手・・・。そんな、たくさんの選手たちが試合後のインタビューに答えていました。そこで感じたのは、誰一人として、「私が頑張ったからメダルが取れたんだ・・・メダルが取れたのは全て俺の実力だよ！」なんてビッグマウスの選手は一人もいませんでした。みんな、たくさんの人に支えられて、皆さんの応援に後押しされて元気が出ました。スノボーの平野選手は、悔しいけど2位で良かった。次の目標ができました・・・と言っていました。彼らがああオリンピックという舞台に立つまでには、本当にたくさんの試練や挫折、失敗や怪我などがあったと思います。しかし、その苦勞を乗り越えて、掴んだ日本代表の座であったと思います。さらに、その上各国の代表が集まったオリンピックの舞台でメダルを取る、自分の実力通りの力を発揮するという事は、並大抵の努力ではなかったと思います。

羽生選手は、4回転サルコウはどのくらい難しいか？という記者の質問に、「目を閉じて、縄跳びの三重跳びをしながら4回転するくらい難しい技です。」と答えていましたが、そのくらい高度の技術を持った選手でさえ、「多くの人に助けられ支えられてここまでたどり着くことができました。感謝がありません」と言っていました。

どの選手にも共通しているのは、みんな「謙虚」だということです。謙虚であるから、たくさんの人から愛されて、応援されて、それがまた自分のモチベーションに帰ってくるのだと思います。

(※謙虚＝素直な態度で人に接すること 人の意見や忠告を素直に聞くこと)

人は、たくさんの人々の支えの中で生きています。3年生は卒業生として、1・2年生は在校生として、この都留二中の生活の中で多くの仲間、先輩、後輩、先生方、たくさんの人に支えられ、たくさんの人を支えてきたと思います。そんな、人々に対する感謝の気持ちを忘れないで欲しいと思います。感謝の気持ちを表す方法はたくさんありますが、例えば、「昨年卒業した〇〇さんは今、〇〇なこと頑張っていますよ・・・！」という話を聞くときは、私は誇らしくもあり、あったかい気持ちになります。そんな意味でも、人に感謝するという事は、次のステージで精一杯の努力をするということだと思います。

3年生は、後期入試前のつかの間の時間を楽しむことができたでしょうか？在校生は、3年生に楽しんでもらえるよう、感謝の気持ちを込めて最後の心を込めたメッセージを送ることができたでしょうか？

この3送会は卒業生、在校生共に心に残る素晴らしい会になりました。